

よる土壌侵蝕、風蝕等を防止することにあります。しかしこの場合、播種日が遅れると（9月以降）草量、根量が少なく、土壌保全効果はあまり大きくなく、8月中に播種しなければなりません。さらに春先に鋤き込む場合は畑作物を播種する1週間以上前に鋤き込まなければなりません。これは緑肥を鋤き込んだ場合、これを分解するため細菌（ピシユーム菌）が急激に増大し、この細菌が畑作物に対して発芽障害等の悪影響を与えるためであります。但し鋤き込み後1週間以上経過すると畑作物への害作用はなくなります。

従ってマンモスイタリアンBとテトリライトのどちらを選ぶかは緑作の播種期、翌春の作業等をよく考慮して決定しなければなりません。

### ◎ライグラスの導入法

#### ① マメ類に間作する場合

マメ類の（早生系大小豆、菜豆）の畦間に粒状肥料と種子をよく混和して播く方法で、ライグラスは地上・地下部合計で10a当り生草収量3t程度は十分期待できます。

播種期は機械作業の関係、ライグラスが伸び過ぎること等があって8月以降でなければならず、また播種期が遅すぎると収量の低下が著しくなります。このため播種適期は8月1日～10日であり、遅くとも20日迄に播種を終えなければなりません。この時期に播いてもマメ類の落葉期があまり遅すぎると光不足のためライグラスは充分生育することができません。つまりマメ類では大豆の早生種、小豆の極早生種、菜豆種の場合に緑肥効果が大きくなります。

肥料はチッソ4、リン6、カリ4kg/10aをライグラス種子2～3kgとよく混和し、ラップ等で畦間に播きます。肥料はマメ類の葉に付着しないように粒状でなければならずチッソは4kg/10a以内に抑えなければなりません。チッソ肥料を与えすぎると登熟が遅れ、根粒菌の活動が鈍くなったり悪影響を与えます。マメ類の刈取後に再びチッソ4、リン4、カリ4kg/10a程度を追肥すると一層よく生育します。この場合マメ類は減収とはならず、逆に10%程度増収となります。（牧草と園芸第21巻8月号参照）

#### ② 馬鈴薯収かく跡地

最近馬鈴薯は2次生長等の問題があって8月末に収穫される例が多く、跡地は完全な裸地となっております。ここにライグラスを導入して水蝕、風蝕を防止して、有機物を補給し、地力を向上する方法です。

畑は何ら障害となるものではなく、最近では機械による収穫がほとんどで、跡地は完全な播種床が出来上がっており、種子と肥料を播くだけでよいわけです。肥料はチッソ4～5、リン4、カリ4kg/10aをライグラス種子2～3kgとよく混和してバラ播き、覆土鎮圧するだけで十分です。覆土は1cm以内。シバハロー等が適当で、シバハローをかけるだけで、無鎮圧でも差支えありません。

## 植生芝用草種と

### 使い方（暖地向）

雪印種苗KK東京支社

小林 正 勝

「緑」の必要性が叫ばれ、「緑化」がマスコミの的となり、最近では日常言のごとく使用されております。身の廻りを見ても、ビルの屋上に植物を植えたり、又道路のグリーンベルトが拡幅となったり、極端なものには、コンクリートモルタルに緑に着色したものもあり、この様に多方面にわたり緑化が広がっております。

そこで緑化の一部である植生芝用種子（土壌保全用草種、芝生用草種）について、特に暖地における使い方と題し、気候、草種、用途と順を追って取り上げてみました。

#### わが国の気候

気候の中で温度は緑化草、芝草の生長、草型、品質などに大きく影響を与える。

特にわが国は南北に長く、暖地と寒地との差が非常に大きい。更に表日本、裏日本、内陸部、標高など季節による気温差もあり、温度は草種選択

の第一条件と言っても過言ではないでしょう。

一般的にわが国の気温は、緑化草、芝草の生育にとって夏季には温度が高すぎ、冬季には低温が過ぎると言われている。

次に降水量ですが、わが国の年間降水量は、1000～2000 mm で、緑化草、芝草の生育には充分の量である。しかし季節的変動が激しいので特に排水面での注意が必要である。中でも降水量の多いのは裏日本で特に標高の高い地帯では2,500 mm を越える年がある、一方北海道、東北、長野県北部、瀬戸内海地方は少なく600～800 mm とされている。

光(日照)は言うまでもないが、緑化草、芝草はその用途から法面、建築物、樹木などによって日光の制限を受ける事がしばしば見受けられる。品種によっては日光不足により著しく徒長するものもあり、反対に日陰に耐える耐陰性の品種も開発されている。

**草種とその特性**

先にも述べた通り、気温条件から、寒地型草種と暖地型草種とに分けることが出来る。寒地型の生育適温は15～20℃位までで、これを越えると高温のため生育が弱り、秋の低温になっても回復が出来ない事がある。関東及び以西の平坦地では6月末から9月始めまでの夏場は平均気温が25℃以上が多くこの様な高温では寒地型草種の生育は困難で、暖地型草種が使用される。そこで暖地型草種を主力に寒地型草種をも含めその特性を表1に示した。近年、寒地型草種の中でも品種により、かなり耐暑性のものが改良、開発され、わが国での需要も急増している。たとえばケンタッキーブルーグラスのフィルキング、バロン、レッドフェスタペンローン、イラヒーなどがそれである。

**用 途**

用途は大きく分け、植生緑化用に芝生用とに分けられる。

**①植生緑化用**

これは、平坦地傾斜地の裸地に対し、土壌侵蝕防止、飛砂防止などを、目的に行なう。

このため、草種選択に当っては、初期生育が早く深根性、土壌適応性、気候適応性などを有する草種となる。

現在、各種の緑化工法が、開発されており、最近の傾向では、平地及び宅地法面の場合、芝生的要素が強くなっている。また傾斜地、特に道路鉄道の法面の場合、周囲の自然環境に近づけ、早く調和するよう、ヨモギ、ススキなどの野草を混生させる方法が取られている。

**②芝生用**

対象が、ゴルフ場、公園、一般家庭、工場などで美観が重大な要素となり、芝生の密度、葉幅、葉色、さらには土壌適応性、気候適応性はもちろん栽培管理面の耐病性、耐虫性、耐踏圧性、刈取抵抗性、回復性など、草種選択の際、考慮が必要である。特に関東及び以西の暖地では、日本芝(コウライシバ、ノシバ)が、気候面、耐病性などの栽培管理の容易さから最も広く用いられている。しかしながら、繁殖力に時間を要し、芝張り費用がきわめて大であるところから西洋芝利用の傾向が現われている。

これら①②を勘案し、草種特性上から表2を示した。この様に草種も多いので、その特性を充分理解し使用することが大切である。

わが国の公園、校庭、私達日本中の家庭のわずかな空地にももっと多くの芝地を作り、芝生の上で生活を楽しみ利用の中から緑化草、芝草に対する知識を自然のうちに深めて行きたいものである。

表-1

草種名	特 性	成 果	植 生 緑 化 用					耐 踏 圧 性	耐 病 性	耐 虫 性	注
			特 性	深 根 性	土 壌 適 応 性	初 期 生 育	成 果				
ペンタスグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ケンタッキーブルーグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ケンタッキーブルーグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クローピンググラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ハイムランドグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
セイワランパシユータ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
パシヤグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ダリスグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シロキグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クローピンググラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
セシキペドグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーペットグラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白クローパ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
イコウライシバ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ノシバ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表-2

草種、品種	項 目	利 用 場 所							
		芝 場				庭 園			
		ゴルフ場	軟式野球場	公園	住宅地	ゴルフ場	法面	庭園	庭園
ハイムランドグラス	コモン	—	—	—	—	—	—	—	—
シロキハイムランドグラス	U3	—	—	—	—	—	—	—	—
セイワランパシユータ	セイワランパシユータ	—	—	—	—	—	—	—	—
パシヤグラス	パシヤグラス	—	—	—	—	—	—	—	—
ダリスグラス	ダリスグラス	—	—	—	—	—	—	—	—
クローピンググラス	クローピンググラス	—	—	—	—	—	—	—	—
セシキペドグラス	セシキペドグラス	—	—	—	—	—	—	—	—
カーペットグラス	カーペットグラス	—	—	—	—	—	—	—	—
ダリスグラス	ダリスグラス	—	—	—	—	—	—	—	—
イコウライシバ	イコウライシバ	—	—	—	—	—	—	—	—
ノシバ	ノシバ	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) G=グリーン  
T=ティー  
F=フェアウェー  
L=リンクサイド  
R=リーフ  
H,R=ヘビークラフ  
 — =最も適する  
 - - - =適する  
 . . . . . =利用可能